

【背景と目指す姿】

- 平成30年から県内食品製造企業(株式会社壮関)との契約栽培で干しいも加工用さつまいも「べにはるか」の生産を8名で始めたところであり、安定生産体制の構築が急務である
- 株式会社壮関では10ha程度の産地ができれば加工、貯蔵施設を産地に設置していく計画があり、生産組合を立ち上げ、近隣に出荷できるよう10ha以上の産地化を目指す
- そのために、栽植密度の検討、堆肥利用の検討、展示ほの設置、大規模・中小規模向けの生産機械整備による規模拡大、栽培マニュアルの作成等により加工用さつまいもの栽培技術を確立し、安定生産体制の構築を目指す

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):0ha → 目標(令和2(2020)年度):8.2ha

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・市と連携した「人・農地プラン」に基づく流動化調整 ・株壮関や関係機関と連携し、導入説明会を定期的開催 ・講習会や現地検討会、情報交換会の開催による既存生産者の技術向上 ・水田の畑地化による産地形成
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・機械装備を充実させ、規模別に中小規模、大規模志向農家を機械化体系モデル経営体として育成 ・機械化による省力化実証 ・大規模生産者が導入する機械を使った作業受託を検討 ・作業受委託やシルバー人材センターへの求人募集等、市、関係機関と連携した雇用確保
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・現地検討会等において、株式会社壮関と栽培状況や加工状況の情報交換を行い、双方に利のある契約を継続 ・株式会社壮関の出荷規格外の生産物は、小さい物は直売所、大きな物は学校給食等の1次加工施設への販路を検討



写真上 先進地視察研修

写真下 組合員ほ場での収穫実演見学会